

## 2013年産カカオ豆市況

2013年のカカオ豆相場は、年間を通じ大きく上昇しました。年初のレベルと比較し12月上旬現在は約2割の上昇となっています。上昇の原因は需要要因(ファンダ筋の買いを含む)による部分が大きく、中長期視点で相場は上昇トレンドに入ったとみる関係者が多い状況です。

生産面では主産地の天候は概ね問題なく推移しており、例年であれば相場は上昇するような環境とは言えませんでしたが、しかしながら需要面では、景気回復による欧米の圧砕量回復からカカオ豆の買付が例年より早いペースですすみ、相場を押し上げる事となりました。これにファンダ筋によるココア史上最大規模の買い越しが重なり、ファンダメンタルズ(相場価格を形成する基礎的条件)以上の相場上昇の展開を引き起こしました。12月上旬現在、ロンドンココア先物定期(第一限月)は1,730英ポンドであり、2011年以來の1,800英ポンドが視野に入ってきています。

一方、中長期における世界のカカオ豆需給見通しは、10万トン~20万トン/年の供給不足が各統計機関や専門家によって予想されています。ICCO(国際ココア機関)の12月需給発表(2012/13年クロープ)においても16万トンの供給不足と発表され、前回発表(5.2万トン供給不足)からさらに需給逼迫の見通しが出されました。欧米の景気回復や新興国でのチョコレート需要台頭といった需要増の流れは止まる気配がなく、この事が、相場の上昇ムードを形成している最大の材料といえます。

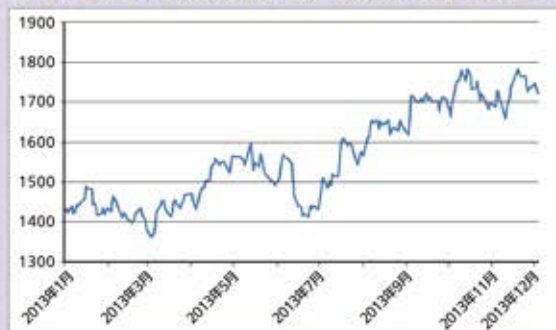
同時に日本国内の需要家にとっては為替も悩ましい一年でした。主産地である西アフリカ産カカオ豆の取引の多くは、取引所のある英ポンド建てで行なわれます。2012年末以降現在も続いている円安トレンドに加え、本年後半は経済に明るさの出た英国経済を反映した英ポンド買いの流れから、対英ポンドでの円安(年初レベルと比較し17%下落)が、カカオ豆輸入価格の上げ幅を拡大しました。

また、カカオ豆の主要加工品のひとつであるカカオバターは、カカオ豆以上に急激な価格高騰を見せた1年でした。カカオバターの生産者であるプロセッサの生産調整によるバター在庫の減少が主な原因と言われています。年末になりようやく国際取引価格の上昇には一服感が出てきたものの、依然としてタイトな需給バランスが続いています。



カカオの実

ロンドンカカオ豆定期(期近第一限月)(英ポンド/MT)



為替 英ポンド/日本円

